

令和2年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

第7号 令和2年7月21日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



1. 気象経過

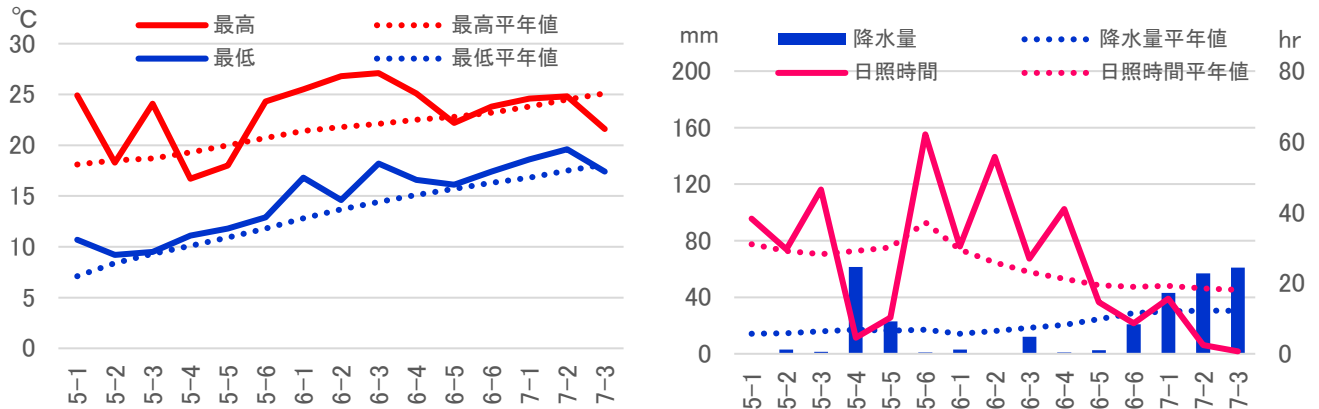


図1 田植後の半旬別気象経過(鹿島台アメダス)

表1 半旬別の気象経過(鹿島台アメダス)

期間	平均気温		最高気温		最低気温		降水量合計		日照時間合計	
	本年値 (°C)	平年差 (°C)	本年値 (°C)	平年差 (°C)	本年値 (°C)	平年差 (°C)	本年値 (mm)	平年比 (%)	本年値 (時間)	平年比 (%)
7月第1半旬	20.8	0.9	24.6	0.8	18.6	1.8	43.0	143%	15.6	81%
7月第2半旬	21.8	1.3	24.8	0.3	19.6	2.1	57.0	186%	2.5	14%
7月第3半旬	19.3	-1.8	21.6	-3.5	17.4	-0.7	61.0	201%	0.7	4%

<7月第3半旬>

気温：低い

日照時間：少ない

降水量：多い

2. 管内生育調査ほの生育概況

幼穂長の伸長が遅れています。

低温と日照不足の影響で、生育は停滞傾向です。

表2 生育調査結果

調査地点	品種	区分	田植日	栽植密度 (株/m ²)	7月10日調査結果					7月20日調査結果					
					草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)	
涌谷 (小谷地)	ひとめぼれ	本年値	5月10日	18.9	65.3	597	11.7	45.1	0.7	73.7	594	12.5	44.5	20.8	
		前年比・差	2日早い	101%	115%	109%	0.7	100%	0.4	94%	113%	0.0	102%	-8.2	
		平年比・差	2日早い	107%	106%	105%	0.7	106%	-0.7	99%	109%	0.2	114%	-10.9	
田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月9日	16.3	62.7	461	11.4	43.2	1.3	71.2	435	12.1	43.5	22.8	
		前年比・差	3日早い	104%	106%	98%	0.2	94%	0.9	106%	97%	0.2	100%	-5.2	
		3ヶ年平均比・差	4日早い	101%	101%	93%	0.2	97%	0.8	95%	91%	-0.1	112%	-0.5	
鹿島台 (木間塚)	ササニシキ	本年値	5月11日	15.6	66.0	569	10.6	39.9	0.8	72.3	534	11.3	36.9	16.3	
		前年比・差	3日早い	90%	111%	81%	-1.5	103%	-0.3	108%	85%	-1.6	103%	-4.4	
		平年比・差	4日早い	87%	108%	90%	-0.7	106%	-0.9	101%	93%	-1.2	109%	-58.3	
鹿島台 (木間塚)	だて正夢	本年値	5月24日	18.8	69.4	438	10.4	48.6	0.3	78.4	444	11.4	45.0	3.3	
		前年比・差	11日遅い	89%	104%	75%	-1.2	106%	0.3	104%	85%	-1.1	101%	-4.7	
		3ヶ年平均比・差	11日遅い	91%	106%	87%	-0.6	113%	-0.3	103%	99%	-0.7	114%	-14.8	
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	本年値	5月4日	16.3	68	460	12.3	39.9	0.9	77.9	432	13.2	38.9	14.9	
		前年比・差	1日遅い	100%	111%	83%	1.1	98%	0.42	114%	83%	1.3	103%	6.7	
直播	小牛田 (荻坪)	萌えみのり(湛水点播(鉄))	本年値	5月11日	20.4	53.7	592	9.2	45.9	0.5	70.5	600	10.4	45.1	0.5
			前年比・差	2日早い	109%	120%	136%	0.5	100%		135%	92%	0.8	97%	-0.2

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

3. 今後の栽培管理

(1) 出穂期の予測

表3 生育ステージの予測値（7月20日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日
予測値	7/30～8/2	8/1～8/5	8/3～8/7	8/6～8/11	8/8～8/14

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。

移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。

平均気温は7月19日までは鹿島台アメダスの実測値、7月20日以降は平年値。

(2) 出穂後の水管理

1) 出穂後の水管理

穂ばらみ期から出穂・開花期前後は、水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられ、収量・品質に影響します。

出穂期は「浅水管理」とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、「間断かん水」や「飽水管理」を行いましょ。

出穂後25日頃には玄米千粒重の80%以上が確保されますが、高品質・良食味とするため、落水は出穂後30日以降に行いませ。

2) 高温時の水管理

高温時には、掛流しかんがいが最も有効です。

〔前提条件〕

①気温よりも温度の低い用水が確保できること

②10a 当たり毎分200～300^{リットル}程度の用水流入量を確保できること

また、湛水することなく、走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理や用水温の変動幅が小さいことを利用した昼間深水(午前9時～10時にかん水)・夜間落水(午後4時頃に落水)も効果があります。

(3) 病害虫防除

1) いもち病

7月5日以降、感染好適条件の広域出現日が連続しており、葉いもちに感染しやすい状況が続いています (BLASTAMによる推定)。

管内でも、中位葉に葉いもちの病斑が出ているほ場が見られます。

7月上旬の日照時間は、平年比48% (鹿島台アメダス) と少なかったことから、稲体のいもち病に対する抵抗力が低下していると考えられます。また、向こう1か月も日照時間が少ない予報となっています (仙台管区气象台1か月予報 7月16日発表)。

上位葉の葉いもちは、穂いもちの発生源になります。穂いもちの予防防除を行った場合でも、

ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認した場合、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。特に、追肥後は一時的に稲体の窒素濃度が高まり、いもち病に対する抵抗力が弱まるため、薬剤散布を併せて行いましょう。

穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょう。

茎葉散布剤による穂いもちの防除は、1回目を出穂直前に、2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちの多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。

2) 紋枯病

昨年発生したほ場では、ほ場に菌が残っており、本年も発生することが懸念されます。

紋枯病は登熟不良、倒伏の原因にもなるので、多発が予想されるほ場では、穂ばらみ期～出穂期に薬剤による防除を行いましょう。

○要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）

穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」18%、「ササニシキ」10%

3) 斑点米カメムシ類

○基本の薬剤防除 ※薬剤は畦畔も含めて散布しましょう。

1回目：穂揃期 → 2回目：穂揃期の7～10日後

○イヌホタルイ発生水田の場合

1回目：出穂始～穂揃期 → 2回目：穂揃期の7～10日後

4) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

直播栽培など一般ほ場より生育ステージが遅く、葉色が濃いと被害が大きい傾向があります。

○防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期（7月下旬～8月上旬）

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

※若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意しましょう！

気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中齢～老齢幼虫になっており、防除適期を逃してしまうので、ほ場の発生状況を見ながら適期に防除を行いましょう。

